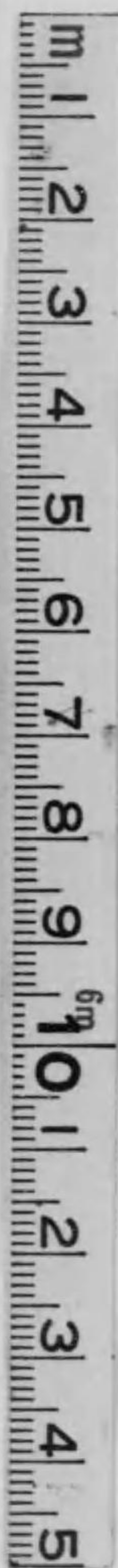


14.2₁

230

大正五年度
東京府立農事試驗場
業務印程



始



大正五年度業務功程

東京府立農事試驗場

14₂₄-230

大正五年度業務功程目次

種藝部

本場ノ部	第一 水稲	三
	第二 陸稻	四
	第三 大麥	五
	第四 小麥	五
	第五 粟	六
	第六 水稲	六
	第七 陸稻	七
	第八 大麥	七
	第九 小麥	七
	第十 粟	八
	第十一 水稲	八
	第十二 陸稻	八
	第十三 大麥	九
	第十四 小麥	九
	第十五 粟	九
第二分場ノ部	第一 水稲	九
	第二 水田裏作	一〇
	第三 大麥	一〇
	桑樹ニ關スル試験(第一分場)	一一

園藝部

本場ノ部	第一 瓜哇薯	二
	第二 甘藷	三
	第三 牛蒡	三
	第四 胡蘿蔔	三
	第五 南瓜	三
	第六 茄子	四
	第七 蕃茄	四
	第八 菜豆	四
	第九 蘿蔔	五
	第十 結球白菜	五
	促成栽培	六
	花弁	六
	試作	七
	委託試験及委託採種	八
第一分場ノ部	第一 甘藷	八
第二分場ノ部	第一 葱	八

大正 6 12 3
内交

第二	蕪	一九
第三	茄子	二〇
第四	越瓜	二〇
第五	甜瓜	二一
第六	四瓜	二一
第七	南瓜	二一
第八	胡瓜	二一
第九	菜豆	二一
第十	刀豆	二二
第十一	鷓豆	二二
第十二	菜	二二
第十三	瓜哇薯	二二
第十四	小蕪菁	二三
第十五	葱頭	二三
第十六	甘藍	二三
第十七	龜戶蘿蔔	二三
試作		二三
畜産部			
第一分場ノ部			
家畜	二四	
豚	二四	
病蟲部			

第一	本場ノ部	二四
第二	二化螟蟲ニ關スル調査	二四
第三	穀蟲驅除	二五
第四	作物病蟲害ニ關スル試験	二五
化學部			
本場ノ部			
第一	三要素適量試験	二七
第二	窒素肥料配合試験	二七
第三	肥料反應試験	二七
第四	分析	二七
庶務部			
第一	文書受付及發送件數	二八
第二	技術ニ關スル質問應答件數	二八
第三	講習及講話等ニ關スル出張日數	二九
第四	印刷物配布	二九
第五	種苗配布	二九
第六	種鶏及種卵配布	三〇
第七	種豚配布	三一
第八	見習生養成	三一
第九	氣象觀測	三一
第十	參觀人數	三一

大正五年度業務功程

種藝部

本場ノ部

第一 水稻

一、品種比較試験 各品種ニツキ生育收量及品質ノ良否ヲ比較センカタメ種二十四種、糯四種ニ付試験シタルニ早稻種ニアリテハ龜ノ尾(二石一斗七升四合)中稻種ニアリテハ愛國(二石二斗五升一合)無芒愛國(二石一斗)品川(二石九斗八合)晚稻種ニアリテハ豐前穗(二石一斗六升)東錦(二石一斗二升六合)中生神力(二石一斗二合)糯ニテハ金佐糯(一石六斗九升六合)等優良ナリキ

二、三要素適量試験 水稻ニ對スル三要素ノ適量ヲ査定センカタメ硫酸安母尼亞、過磷酸石灰、木灰等ノ肥料ヲ用キテ試驗シタルニ窒素ハ一反當ニ貫五百匁乃至三貫匁、磷酸ハ二貫匁乃至二貫五百匁加里ハ二貫五百匁最モ收量多カリシモ加里成分ニツキテハ未タ確カナラサル所アリ

三、密植試験 密植ノ利害ヲ驗スルト共ニ密植ノ方法ニヨリ生育收量ニ及ホス關係ヲ知ラントスルモノニシテ一坪株數四十八株乃至九十株一株苗數三本乃至七本ノ五區ニ就キ試驗シタルニ八十株四本植最モ收量多クハ十株三本植最モ劣レリ

四、品種對肥料用量試驗 水稻ノ品種ニ對スル肥料ノ用量ヲ知ラントスルモノニシテ普通肥料乃至其ニ倍量施用ノ五區ニツキ試驗シタルニ房州、信州、無芒愛國、關取、出雲錦、豐前穗、等各種共ニ普通肥料

二倍量ヲ施用シタル場合收量最モ多カリキ

五、栽培法ト增收トノ關係試驗 栽培法ト增收トノ關係ヲ知ランカタメ苗代播種量ノ多少株數ノ多寡等ヲ區別シ房州、豊前穂、無芒愛國ノ三品種ニツキ各種八區ニ別チ試驗シタルニ三合播ニアリテハ畦幅一尺株間三寸ノモノ一般ニ可ナルカ如キモ一合播ニアリテハ成績區々ニシテ一様ナラザリキ

六、追肥ノ試驗 追肥ノ施用ト生育收量トノ關係ヲ知ランカタメ普通肥料區ト追肥區トニ別チ試驗シタルニ追肥區收量劣レリ

第二 陸 稻

一、品種比較試驗 各品種ノ優劣ヲ比較試驗スルモノニシテ梗十八種糯五種ニツキ試驗シタルニ梗ニテハ戰捷(一石六斗九升七合)最モ收量多ク糯ニアリテハ尾張糯藤糯優良ナリキ

二、肥料用量試驗 肥料ノ施用量ノ多少ト生育收量トノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ普通肥料乃至二倍施用ノ五區ニ別チ試驗シタルニ普通肥料ノ五割増施用區收量最モ多カリキ

三、肥料反應試驗 肥料ノ反應ヲ異ニシテ肥料ヲ配合施用スル場合生育收量ニ如何ナル關係アルカヲ知ラシメントスルモノニシテ化學肥料ヲ用ヒテ試驗シタルニ酸性肥料區最モ優レリ

四、窒素質肥料配合法試驗 形態ヲ異ニセル窒素質肥料ノ配合ヲ異ニセハ生育收量ニ如何ナル關係ヲ及ホスカヲ驗センカタメ十區ニ別チ試驗シタルニ本年度ノ成績ハ大豆粕區收量最モ多ク四ヶ年平均收量ハ硫酸アンモニア區最優ナリキ

五、肥料施用法試驗 施肥ノ方法ヲ異ニスルニヨリ生育收量ニ及ホス關係ヲ知ランカタメ十二區ニツキ試驗シタルニ人糞尿ト木灰トヲ混合セスシテ施シタル區收量最モ多ク智利硝石ト木灰トヲ混合セスシ

テ施シタル區最モ劣レリ

六、硫酸加里肥効試驗 硫酸加里ノ肥効ヲ知ラントスルカタメ四區ニ別チ糞灰ト其效果ヲ比較シタルニ四ヶ年平均成績ニヨレハ硫酸加里ノ肥効ハ糞灰ニ優レリ

第三 大 麥

一、品種比較試驗 各種ノ優劣ヲ比較スルモノニシテ二十五品種ニツキ試驗シタルニ名古屋備前(三石七斗三升九合)野田大麥(三石五斗九升四合)改良大麥(三石五斗一升三合)等優良ナリキ

二、石灰施用試驗 當場ノ如キ畑地ニ於テ石灰ヲ施用スル場合其施用量ヲ知ランカ爲メ試驗シタルニ施用セサル普通區收量優リ石灰ノ用量ヲ増加スルニ從ヒ收量ヲ減セリ

三、品種對肥料用量試驗 品種ト肥料用量トノ關係ヲ知ランカタメ備前早生、ゴールデンメロン、岡山ノ三種ニツキ各種普通肥料乃至二倍量施用ノ五區ニ別チ試驗シタルニ成績區々ニシテ斷定シ難シ

四、硫酸加里肥効試驗 硫酸加里ノ肥効ヲ糞灰ト比較シタルニ硫酸加里肥効多キカ如シト雖モ未タ斷定シ難シ

五、肥料反應試驗 肥料ノ反應ヲ異ニセル配合法ト生育收量トノ關係ヲ知ランカタメ六區ニ別チ試驗シタルニ酸性區收量最モ多ク鹽基性肥料區ハ無肥料區ト收量略ホ同シナリキ

第四 小 麥

一、品種比較試驗 各種ノ優劣ヲ比較スルモノニシテ十種ニツキ試驗シタルニ關取(二石一斗四合)穂長(二石)尾島早生(一石八斗八升一合)達磨(二石八斗五升七合)等優良ナリキ

二、品種對肥料用量試驗 品種ト肥料用量トノ關係如何ヲ知ランカタメ尾島早生、相州、達磨ノ三種ニ

ツキ普通肥料乃至二倍量施用區ノ五區ニ別テ試験シタルニ品種ニヨリテ肥料用量ヲ異ニスルカ如ク尾島早生ニアリテハ普通肥料五割増區相州ニ普通肥料區遠磨ハ普通肥料五割増區收量最モ多シ

第五 稗 麥

一、品種比較試験 各種ノ優劣ヲ比較スルモノニシテ十種ニツキ試験シタルニ御膳稗(二石二斗五升九合)最モ收量多クこびん(二石一斗九升六合)大丈夫(二石一斗七升)之ニ次ケリ

第一分場ノ部

第一 水 稻

一、品種比較試験 各種ノ優劣ヲ比較スルモノニシテ種二十五種糯十一種ニツキ試験シタルニ梗ニアリテハ早生種ニテ兵藏コボレ(二石五斗九升五合)房州(二石五斗三升)中生種ニテハ愛國(二石七斗八升)無芒愛國(二石七斗八合)晚生種ニテハ有芒穗揃(二石七斗三升五合)大關(二石七斗九升)竹成(二石七斗二升一合)糯ニアリテハすゝ糯(二石六斗四升)羽二重糯(二石五斗八升)等優良ナリキ

二、分蘖シタル苗ノ試験 分蘖シタル稲苗ヲ用ユルノ可否ヲ知ランカタメ坪一合播トナシ分蘖數及一株苗數ヲ異ニシ試験シタルニ一本苗四本植最モ收量多ク四本苗二本植三本苗二本植等之ニ次ケリ

三、品種對肥料用量試験 品種ト肥料用量トノ關係ヲ知ランカタメ十二品種ニツキ普通肥料乃至二倍量施用ノ三區ニ別テ試験シタルニ品種ニヨリ肥料用量ノ増加ニ從ヒ收量ノ増加スルモノト之ニ反シ却テ收量ノ減少スルモノトアリタリ

四、純系分離試験 本年ハ第一年目ニテ愛國種ニツキ七百四十二株中ヨリ三十八系統ヲ撰拔セリ

第二 陸 稻

一、品種比較試験 各種ノ優劣ヲ比較スルモノニシテ種六種糯六種ニツキ試験シタルニ梗ニテハ戰捷(一石三斗四升七合)糯ニテハ江會島糯(一石五斗二升三合)最モ收量多カリキ

二、播種期試験 播種ノ適期ヲ知ラントスルモノニシテ休閑地ニ於テハ五月一日播最モ收量多ク大麥跡地ニアリテハ五月十一日播五月廿一日播五月三十一日播略ホ收量同シナリキ

三、播種量試験 適當ナル播種量ヲ知ランカタメ一升播乃至五升播ノ五區ニ別テ試験シタルニ五升播並ニ三升播收量多シ

四、陸稻ト前作トノ關係試験 麥作跡ニ陸稻ヲ栽培スル場合麥ノ種類ヲ異ニスルニヨリテ陸稻ノ生育收量ニ關係ヲ及ホスヤヲ試験セシニ小麥跡收量最多キヲ示セリ

五、純系分離試験 本年ハ第一年目ニシテ戰捷種ヲ用井三十五系統ヲ撰拔セリ

第三 大 豆

一、品種比較試験 各種ノ優劣ヲ比較スルモノニシテ十二品種ニツキ試験シタルニ東錦(一石五升五合)鬼稗(一石三斗五合)等優良ナリキ

二、大豆ト前作トノ關係試験 麥作跡ニ大豆ヲ栽培スル場合麥ノ種類ヲ異ニスルニヨリ大豆ノ收量ニ影響アルカヲ試験シタルニ小麥作跡收量多シ

第四 粟

一、粟ト前作トノ關係試験 麥作ト粟作トノ關係ヲ試験セシニ麥ノ種類ヲ異ニシタル跡地ニ粟ヲ栽培スルモ其收量ニ大差ナカリキ

第五 大 麥

- 一、品種比較試験 各種ノ優劣ヲ比較試験シタルニ十二品種中金玉(四石一斗四升四合)相州早生(三石八斗六升九合)等優良ナリキ
- 二、蒔幅對畦幅試驗 蒔幅ト畦幅トノ廣狹ニヨリ大麥ノ生育收量ニ及ボス關係ヲ知ランガタメ十三區ニ別テ試験シタルニ畦幅二尺蒔幅二寸ノモノ最モ優良ナルヲ示セリ
- 三、石灰窒素施用量試驗 石灰窒素ヲ施用スル場合其適量ヲ知ランガタメ普通肥料ト比較シ其含有窒素成分量ヲ石灰窒素ヲ以テ代用シタルニ三ヶ年平均成績ニヨレバ普通肥料區收量多ク本年ノ成績ハ窒素成分ノ四分ノ二ヲ石灰窒素ニテ施シタルモノ收量多カリキ
- 五、播種法對發芽力試驗 播種法ノ如何ニヨリ大麥ノ發芽力ニ如何ナル關係ヲ及ボスカヲ試驗シタルニ發芽歩合收量共ニ多キハ施肥覆土シテ播種シ更ニ覆土シタル場合ニシテ元肥ヲ施サズ播種シ覆土シタル者ハ發芽歩合最モ少ク且ツ凍害ニ罹リ易キヲ示セリ
- 六、大麥ト前作トノ關係試驗 夏作各作物跡地ニ於ケル大麥作ノ生育收量ヲ試驗シタルニ大豆作跡陸稻跡粟跡甘藷跡ノ順次ニ其收量ヲ減少シタリ

第六 小 麥

- 一、品種比較試験 各種ノ優劣ヲ比較センガタメ十二品種ニツキ試験シタルニ白小麥(二石一斗八合)達磨(二石九升)相州(二石八升二合)關取(二石七升四合)等優良ナリ
- 二、石灰窒素施用量試驗 石灰窒素ノ施用量ヲ知ランガタメ當場普通肥料ト比較シ其含有窒素成分量ヲ石灰窒素ニテ代用セントシテ試験シタルニ普通肥料區收量最モ多ク石灰窒素ヲ施用スル場合ハ其量多キニ從ヒ收量ノ増加スルヲ示セリ
- 三、小麥ト前作トノ關係試驗 夏作跡ニ小麥ヲ栽培スル場合前夏作物トノ關係ヲ試驗シタルニ大豆跡地收量最モ多ク陸稻跡甘藷跡粟跡順次之ニ亞ゲリ

第七 稗 麥

- 一、品種比較試験 各種ノ優劣ヲ比較スルタメ十一品種ニツキ試験シタルニ長毛(二石五斗九升九合)宗兵衛(二石五斗四升二合)御膳稗(二石五斗四升)等優良ナリキ

第二分場ノ部

第一 水 稻

- 一、品種比較試験 各種ノ優劣ヲ比較スルモノニシテ粳十九種、糯五種ニツキ試験シタルニ粳ニアリテハ早生種ハ千葉錦(二石八斗八升三合)中生種ニテハ品川(二石九斗一升七合)晚生種ニテハ花嫁(二石八斗四升四合)大關(二石八斗二升六合)等收量最モ多ク糯ニアリテハ晚彌右衛門(二石三斗四升六合)收量最モ多シ
- 二、株數對肥料用量試驗 一株本數及一坪株數ノ多寡ノ生育收量ニ及ボス關係並ニ肥料用量ヲ異ニスルヨリ生育收量ニ及ボス關係ヲ知ランカタメ千葉錦、珍子、大關ノ三品種ニツキ二十四區ニ別テ試験シタルニ各品種共株間六寸三本植區收量最モ多ク肥料用量ノ増加ニ伴ヒ其收量ヲ増加セリ
- 三、播種量對株數試驗 播種量ノ多寡ト株數ノ粗密ハ其生育收量ニ如何ナル影響アリヤヲ知ランカタメ坪一合播二合播三合播ノ三種ニツキ株數ヲ異ニシ試験シタルニ坪一合播トナシタル苗ヲ株間三寸

(縦株間一尺)ニ一本植トナシタルモノノ收量最モ多ク概シテ薄播苗ハ生育良好ニシテ收量多キガ如シ

四、有機質肥料配合試験 各種有機質肥料ヲ配合施用シ其生育收量ニ及ボス關係ヲ知ランガタメ七區ニ別ケ試験シタルニ綠肥、人糞尿、過磷酸石灰ヲ配合施用シタルモ收量最モ多ク綠肥、過磷酸石灰區ハ倒伏シ易キ傾向アリ

五、肥料配合應用試驗 三要素適量試驗ノ成績ニ基キ三要素配合ノ割合等シクシ各種肥料ヲ配合シ利害得失ヲ試験シタルニ人糞尿、大豆粕、過磷酸石灰、糞灰等ヲ配合シ三割増施用區收量最多カリシモ其成績未ダ判明スルニ至ラズ

七、石灰窒素肥効試驗 人糞尿ノ代用トシテ石灰窒素ヲ施用セバ生育收量ニ如何ナル影響アルカラ見出サンガタメ施行シタルモノニシテ石灰窒素代用ノ有利ナラザルヲ示セリ

八、鹽化滿俺加用試驗 刺激劑トシテ鹽化滿俺ノ效果ヲ知ラントスルモノニシテ其成績ニヨレバ反當鹽化滿俺一貫五百匁施用シタルモノノ最收量多カリキ

九、耕勸深淺對肥料用量試驗 水田耕勸ノ深淺並ニ肥料用量ノ多少ニヨリ收量ニ及ボス關係ヲ知ランガタメ四寸耕、六寸耕、八寸耕ノ三區ニ別ケ試験シタルニ耕勸ノ深キニ從テ收量多ク尙ホ肥料五割増トナセバ收量ノ著シク増加スルヲ示セリ

一〇、品種豫備試驗 各地ヨリ有望ノ品種ヲ蒐集シ優良品種ヲ見出サン爲メ二十五品種ヲ試作セリ

第二 水田裏作試驗

水田裏作トシテ最適當ナル作物ヲ知ラントスルモノニシテ草莓、甘藷、紫雲英、苜蓿、瓜哇薯、京菜山東菜、小松菜、小蕪菁、蠶豆、豌豆、大麥、葱頭、胡瓜等ノ各種作物ヲ栽培試験シタルニ生産額ノ

多カリシハ葱頭ヲ栽培シタル場合ニシテ葱頭高畦三列植(收入反當七九.五〇)同高畦二列植(收入反當四八.一五)ニシテ之ニ次ギテハ京菜、山東菜區(收入反當四三.五八)ナリトス

第三 大麥

一、品種比較試驗 各種ノ優劣ヲ比較スルモノニシテ六種ニツキ試験シタルニ收量多キハ六角(三石八斗九升七合)野地四石(三石六斗三升)ニシテ成熟期ノ早キハ岡山(五月三十日熟)關取(五月三十一日熟)ナリトス

桑樹ニ關スル試驗

第一 分場

一、品種試驗 二十六品種ニツキ調査シタル成績ニヨレバ收量最モ多キハ早生桑ニテハ伊達、市平中生桑ニテハ御所撰晚生桑ニテハ山中高助、切葉十文字等ナリトス

二、株數疎密試驗 株數ノ粗密ニヨリ收量成育等ニ如何ナル關係アルヤヲ試驗セシニ大正五年度ノ成績ハ疎植區優レルモ九ヶ年平均ニヨレバ密植區優レリトス

三、株ノ仕立方試驗 株ノ仕立方ノ得失ヲ試驗セルニ其收量量ハ中刈區根刈區高刈區ノ順序ナリトス

四、喬木仕立試驗 喬木仕立法ト其生育收量トノ關係ヲ試驗セシニ秋田仕立ハ清國仕立ニ勝レリ

五、栽培法試驗 在來法ト當場普通法トノ優劣ヲ比較スル當場法在來法ニ比シテ優レリ

六、施肥期試驗 肥料ヲ施ス時期ニヨリ生育收量量ニ影響アルヤヲ試驗セシニ夏肥區最モ優良ニシテ春肥區普通區之ニ次ゲリ

七、窒素質肥料試験 大豆粕、鯧粕、智利硝石、石灰窒素、堆肥ノ五肥料ニツキ其何レカ適當ナル
 カヲ試験セシニ石灰窒素及智利硝石區收量最多ク大豆粕區收量最少シ
 八、秋蠶用桑葉再摘採試験 春蠶ニ使用シタル桑園ヲ再ヒ秋蠶用ニ供セントスルトキノ摘採法ヲ研究
 スルニアリテ其成績ニヨレハ春期ノ收葉量ハ摘採セサル區最多ク半葉摘採給補肥區之ニ次キ秋蠶用摘
 葉量ハ一般ニ給補肥區優リ半葉摘採ハ全葉摘採區ヨリ優レリトス

園藝部

本場ノ部

第一 瓜ニ哇薯
 一、品種試験 各種ノ優劣ヲ比較シ府下ニ適スルモノヲ見出サンカタメニ十四品種ニツキ試験セシニ
 收量多キハ「ルーラルニューオーカー」ニシテ「サーウアルターレー」之レニ次グ
 二、施肥量及ヒ施肥法試験 施肥量及施肥法ノ差違ニヨリ生育收量ニ及ホス影響ヲ知ランガタメ五區
 ニ別チ試験シタルニ普通肥料中ノ人糞尿ハ總施用量ノ三分ノ一即チ五十貫匁ヲ元肥トシテ施シ残り三
 分ノ二即チ百貫匁ヲ追肥トシテ施用スルヲ最モトスルヲ示セリ
 三、種薯ノ大小ト施肥量トノ關係試験 從來ノ試験成績ニヨレハ種薯ノ大小ハ收量ニ差違ヲ及ホスヲ
 示セリ然シテ施肥量ノ増加ハ種薯ノ大小ト如何ナル關係ヲ有スルカヲ知ランカタメ普通肥料、同二割五分
 増、同五割増ノ三區ニ別チテ試験セシニ大中薯ニアリテハ二割五分増小薯ニアリテハ五割増收量多シ
 四、鹽化滿俺加用試験 刺激劑トシテ鹽化滿俺ヲ施用スルトキハ生育收量ニ如何ナル關係アルカヲ知

ランカタメ鹽化滿俺反當一貫匁乃至三貫匁ヲ施用シタルニ鹽化滿俺ノ施用ハ却テ收量ノ減スルヲ見タリ
 五、種薯ノ處置法ト發芽期トノ關係調査 種薯ノ處置法ヲ異ニスルトキハ其發芽ノ遲速ニ如何ナル影
 響アルヤヲ知ラントスルモノニシテ春種、秋種ニツキ試験シタレドモ未タ判然タル結果ヲ得ズ

第二 甘薯

一、品種試験 前年ニ繼續施行セルモノニシテ收量最多キハ硫球ニシテ川越、テリコ、花薯等之ニ亞
 ゲリ
 二、採苗法及苗處理法試験 採苗法及採取セル苗ノ處置法ヲ異ニスル時ハ其生育收量ニ如何ナル差異
 アルカヲ試験セシニ採苗後一日日光ニ晒シタル後挿植セシ者收量最多ク蕻形モ亦能ク肥大セルヲ示
 セリ
 三、肥料用量試験 施肥量ノ適量ヲ知ラントスルモノニシテ其成績ニヨレハ普通肥料二割五分増區最
 優良ナリキ

第三 牛蒡

一、大豆粕増施試験 牛蒡ノ如キ生育期間永キ作物ニ粕類ノ如キ持久的肥効ヲ有スル肥料ヲ増施セハ
 其收量ニ如何ナル關係ヲ生スヘキカヲ試験セシニ本年度ノ成績ニヨレハ肥料ノ増施ハ其收量ニ關係ナ
 ク耕土ノ深淺ト甚大ナル關係アルコトヲ示セリ
 二、磷酸質肥料試験 米糠ト過磷酸石灰トノ優劣ヲ比較シタルニ米糠ト過磷酸石灰トヲ併用シタルモ
 ノ最モ收量多ク米糠單用之レニ次キ過磷酸石灰單用最モ劣レリ

第四 胡蘿蔔

一、肥料試験 肥料ノ種類ト其收量トノ關係トヲ試驗シタルニ其成績ニヨレハ人糞尿、過燐酸石灰、
糞灰等ヲ配合施用シタルモノ收量最モ多ク人糞尿、米糠、過燐酸石灰、糞灰等ヲ配合施用シタル場合
收量最モ少シ

二、食鹽加用試験 食鹽ヲ加用スルトキハ其根部ノ色澤ニ如何ナル影響アルカヲ試驗セシニ甚シキ相
違ノ點ヲ見出ササリキ

三、過燐酸石灰施用量試験 過燐酸石灰施用量ノ適量ヲ見出サントスルナルガ其結果未タ確定スル能ハ
ズト雖モ十貫内外ヲ使用スルトキハ收量ヲ増加シ色澤ヲ良好ナラシムルガ如シ

第五 南 瓜

一、品種試験 府下ニ適スル良種ヲ見出サントスルモノニシテ居木橋收量最モ多シ

二、燐酸質肥料試験 米糠ト過燐酸石灰トノ得失ヲ試驗セントスルモノニシテ收量ニ於テハ過燐酸石
灰單用ノモノ優レルモ品質ノ點ニ於テハ過燐酸石灰ト米糠トヲ併用スル場合最モ佳良ナリトス

三、假植回数試験 假植回数ノ適度ヲ知ラントスルモノナレドモ未タ成績ヲ判定スルニ至ラズ

第六 茄 子

一、品種試験 府下ニ適スル良種ヲ見出サントスルモノニシテ十二品種ヲ比較試験シタルニ收量品質
共ニ優レタルハ山茄ニシテ矢島茄ノ顆形大ニ色澤形狀及品質優レ收量亦少ナカラサレハ晩生施中ノ優
良種ナルヘシ

二、肥料試験 各種ノ肥料ヲ配合施用スルトキ其生育收量ニ及ホス影響ヲ知ラントスルモノニシテ十
區ニ別テ試験シタルニ收量最モ多キハ硫酸安母尼亞區ニシテ菜種油粕區及米糠區之ニ次キテ稍同シク

過燐酸石灰區收量最モ少シ而シテ品質ノ點ニ於テハ菜種油粕區最モ優レ硫酸安母尼亞區ハ莖葉ノ發育
良好ニシテ殊ニ生育ノ初期ニ於テ他ノ者ニ比シ著シキ差異アリ且ツ茄子ノ形狀整正ニシテ軟カナレト
モ色澤ニ於テ劣ル所アリ米糠區ハ莖葉ノ發育良好形狀整正色澤及品質亦良好ナリ

三、假植試験 假植回数ノ適度ヲ知ラントスルモノニシテ收量ハ一回假植ノモノ假植セサルモノニ比
シ多キモ草勢ハ假植セサルモノ旺盛ナリトス

第七 蕃 茄

一、品種試験 府下ニ適スル良種ヲ見出サントスルモノニシテ十八品種ニツキ試験シタルニ收量最モ
多キハ「ウキンター」、「ビユーター」ニシテ「ボンデローザ」、「サチスファクション」之レニ次グ品質形狀等優
良ナルハ「ベスト」、「オール」、「セクタッド」、「ストーン」等ナリトス又温室内栽培用トシテ優良ナル
ハ「ウキンター」、「ビユーター」ニシテ「ソース」原料用トシテハ「クリムソン」、「カツション」ヲ第一トシ「ア
リー」、「フリードム」、「スーバープ」、「サラド」、「アリーアナ」等「ベスト」、「オール」等優良ナル成績ヲ得タリ

二、整枝法ト株間トノ關係試験 整枝法ハ從來二本立トシタルモ之レヲ一本立トシテ其株間ヲ異ニス
ルノ得失ヲ試験セシニ二本立最モ良好ニシテ一本立ハ株間狭キニ從ヒ漸次收量ヲ減セリ

第八 菜 豆

一、品種試験 府下ニ適スル良種ヲ見出サントスルモノニシテ十二品種ニツキ試験シタルニ各得失ア
リテ結果ヲ確定スルニ至ラズ

二、一株ニ於ケル本數試験 一株ニ立テシムヘキ適當ナル本數ヲ知ラントスルモノニシテ其成績ニヨ
レハ收穫初期ニハ三本立收量遙カニ多キモ收穫末期ニ於テハ却テ二本立收量多ク總收量ハ三本立多シ

一、聖護院大根播種期試驗 適當ナル播種期ヲ見出サントスルモノニシテ其成績ニヨレハ八月二十日播最モ良好ナリ

二、聖護院大根採種試驗 種子ヲ每年原產地ヨリ購入スルヲ可トスルモ府下ニ於テ採種スル場合ニハ形狀品質ニ如何ナル變化ヲ及ホスカヲ知ラントシ既ニ四ヶ年間採種ヲ繰返ヘシタルニ母本ノ撰擇開花期ニ於ケル雜交防止ニ注意セハ種子ヲ原產地ヨリ購入スルヨリ却テ優良ナル成績ヲ收メ得ヘキヲ示セリ

第十 結球白菜

一、品種試驗 四品種ニツキ優劣ヲ比較シタルニ收量最モ多キハ金州結球白菜ニシテ芝罘白菜之ニ次キ結球ノ良好ナルハ芝罘白菜ニシテ金州白菜直隸結球白菜之ニ次ケリ

二、播種期試驗 播種ノ適期ヲ見出サントスルモノニシテ八月二十日播最モ佳ナリ

三、人糞尿施用量試驗 人糞尿施用量ノ適量ヲ知ラントスルモノニシテ試驗ノ結果ニヨレハ人糞尿施用量ノ増加スルニ從ヒ其收量ヲ増加スルカ如シ

四、種子ノ色ト收量トノ關係試驗 種子ノ色ノ濃淡ト其生育收量トノ關係ヲ試驗セシニ總收量ハ黑色種子優レルモ上株ノ數量ハ赤色種子ニ多キカ如シ

促成栽培

一、各種蔬菜播種期及品種試驗 各種ノ蔬菜ニツキ品種ヲ異ニシ播種期ヲ異ニシテ栽培シ其收穫ノ時期ト市價ノ如何ヲ知ランカタメニ試驗シタルニ其成績左ノ如シ

品 種 名	播 種 期	採 收 期	一 框 ノ 收 益
茄、蔓 細 千 成	大正四年 十二月十七日	自四月十日 至七月十二日	七、八二五
蕃茄アリーフリードム	大正四年 十二月廿七日	自六月三日 至八月八日	八、八二八
無 蔓 菜 豆 黒	大正四年 十月十六日	自十二月二十五日 至二月五日	七、七一三
胡 瓜、針ヶ谷節成	大正四年 十一月十七日	自一月廿七日 至三月廿七日	八、六六一
冬 瓜	大正四年 十二月四日	自四月十二日 至六月十二日	七、二九四

右ノ外軟化栽培トシテ獨活、石刁柏、根芋、茗荷等ノ軟化ヲ行ヒ尙ホ山椒、落、蕨、蒿苳等ヲ試作セリ

花 卉

一、温室内切花收益試驗 切花用トシテハ幾何ノ收益アルカヲ知ランカタメニ「フリージャ」「スプー トビー」ノ二種ニツキ試驗シタルニ棚面一坪ヨリ「フリージャ」ハ七圓廿三錢五厘「スプー トビー」ハ六圓六十二錢八厘ノ收益アリキ

二、切花收益比較試驗 露地栽培ノ各種花卉二十三種ニツキ其收益ヲ比較セシニ各一畝歩ニ對スル收益ノ最モ多キハ「チユリツブ」(五一、九七五)ニシテ「カンナ」(二二、九五〇)「ジンジャ」(一四、〇五〇)等順次之ニ次ケリ

三、輸出向觀賞植物蒐集 輸出向觀賞植物ノ種類及其各品種ヲ蒐集栽培シ栽培ノ難易及其方法等ヲ調査シ觀賞植物輸出獎勵ノ一端ニ供センカタメ左記ノ種類ヲ蒐集セリ

檜葉、柗木、伊吹、藤、青木、松、椿、山茶花、榎、杉、南天、木犀、泰山木、瑞香花、千兩、八ッ
掌、阜月、はちす、百日紅、錦木、木蓮花、柘榴、ごうだん、葉蘭、寶春花、からん、橘、ひいらぎ
せごらす、木瓜、蘇鐵、等三十一種二百二十五品種ヲ蒐集セリ

試作

蕪菁、獨活、石刀柏、野蜀葵、花椰菜、里芋、甘藍、葱、菜類、ルバーブ、菠薐草、番椒、落花生、
蠶豆、豌豆、鵲豆、刀豆、甜瓜、西瓜、越瓜、冬瓜、扁蒲、糸瓜、玉蜀黍、料理菊、蒔、薑、オクラ
香料類等ヲ試作シ優良ナルモノハ採種繁殖ヲ圖リ種苗ノ配布ニ努メタリ
果樹類ハ前年ニ引續キ各種ノ果樹ヲ盆栽トシ或ハ露地ニ試作シ又配布用及母樹用苗木ノ育成ヲ行ヘリ
花卉類モ前年ニ引續キ温室内及露地ニ於テ花卉及其他ノ觀賞植物ヲ試作シ當業者ノ參考ニ資シタリ

委託試驗及委託採種

- 一、委託試驗 前年ニ引續キ果樹委託試驗地ヲ設ケ果樹栽培ノ模範ヲ示シ斯業ノ普及發達ヲ計レリ
又水稻作及水田裏作獎勵普及ノタメ南葛飾郡内ニ四ヶ所南足立郡内ニ一ヶ所ノ委託試作地ヲ設ケ水稻
栽培法ノ改良及水田利用方法ノ獎勵普及ニ努メタリ
- 二、委託採種 當時採種場及蔬菜特產地二十一個所及果樹特產地一ヶ所ニ委託採種育苗場ヲ設ケ之レ
ヨリ得タル種苗ハ原種用トシテ府下一般ノ當業者ニ配布シ優良種ノ普及ニ努メタリ

第一分場ノ部

第一 甘 藷

- 一、品種試驗 各種ヲ比較シ優良ナル品種ヲ見出サントスルタメ八品種ニツキ試驗シタルニ朝鮮、鹿
兒島收量多ク四十日、琉球、高須等順次之ニ次ク
- 二、栽植方向試驗 甘藷苗ヲ麥畦ノ東側ニ植ユルト西側ニ植ユルトノ得失ヲ知ラントスルモノニシテ
試驗ノ結果ニヨレハ東側ニ植ユル方優レルカ如シ
- 三、甘藷ト前作トノ關係試驗 麥作跡甘藷作ノ成績ヲ知ラントスルモノニシテ小麥作跡地ニ作ル方收
量多ク亦品質モ佳良ナルカ如シ

第二分場ノ部

第一 葱

- 一、肥料應用試驗 過磷酸石灰、藎灰、鍊バ粕等ノ効果如何ヲ知ラントスルモノニシテ試驗ノ結果ニ
依レハ普通肥料ニ鍊バ粕反當十二貫匁ヲ加用シタルモノ收量最多ク品質ノ點ニ於テハ何レモ大差ナ
キモ普通肥料中ノ藎灰ヲ減シテ過磷酸石灰ヲ加用シタルモノ品質佳良ナリキ
- 二、大中小苗比較試驗 葱苗ノ大中小ヲ撰別栽培シテ其生育收量品質ニ及ホス關係ヲ試驗セシニ大苗
ハ品質收量共ニ優リ中苗之ニ次キ小苗最モ劣レリ
- 三、品種對收穫期試驗 赤黒ノ二品種ノ收量及品質ヲ比較シタルニ收穫期早キモノハ收量概シテ多キ
モ品質佳良ナルハ一月中旬收穫ノモノナルカ如シ

第二 蕪 菁

- 一、品種試驗 府下ニ適スル良種ヲ見出サントスルモノニシテ其成績ニヨレハ「ローヤルフエボリツ

ト」最モ良好ニシテ「リオネスト」「アメリカンブラツグ」之ニ次ケリ

第三 茄子

一、品種試験 各種ヲ比較シテ優良種ヲ見出サントスルモノニシテ七種ニツキ試験シタルニ收量最多キハ山茄及砂村圓茄等ナレトモ眞黒茄ノ品質最モ優リ收量亦少ナカラス

二、肥料試験 堆肥、米糠、過磷酸石灰等ノ使用ニヨリ生育收量等ニ及ホス影響等ヲ試験シタルニ收量最モ多キハ當場普通肥料區ニシテ品質最良好ナリシハ人糞尿單用區ナリキ

三、病害豫防試験 茄ノ病害豫防トシテ生石灰、硫黃華、ボルドー液、石灰窒素、燒土、天地返シ等ノ効果ヲ比較シタルニ連作地ニ於テハ生石灰反當二十貫匁施用區及燒土法最モ被害少ク新地ニ於テハ生石灰二十貫匁乃至六十貫匁施用區被害ナカリシモ尙ホ試験ヲ重スルニアラザレハ確定シ難シ

第四 越瓜

一、品種試験 府下ニ適スル良種ヲ見出サントスルモノニシテ收量ニ於テハ奈良漬越瓜多ク早生越瓜ニ次グ

二、直播移植比較試験 直播移植ノ利害ヲ知ラントスルモノナルガ未タ成績ヲ判定スルノ時期ニ達セズ

三、追播時期試験 追播ノ適期ト生育收量ノ如何ヲ知ラントスルモノニシテ其成績ニヨレハ七月二十日播ハ八月一日播ニ比シ收量多シ

四、酸性土壤試験 土壤ノ酸性ト肥料ノ種類ト生育收量トノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ試験ノ成績ニヨレハ三尺天地返シ普通肥料區有機質鹽基肥料區收量最モ多シ然レトモ三尺ノ深度ニ天地返シヲ

行フハ勞力ヲ費スコト尠ナカラサレハ經濟上得策ニハアラサランカ

第五 甜瓜

一、品種試験 各種ヲ比較シ良種ヲ見出サントスルモノニシテ九品種ニツキ試験シタルニ良種ト認ムヘキハ「サムライ」黃棗瓜、支那甜瓜、梨瓜、「ゼンニローンド」「パンクエツト」等ナリトス

第六 西瓜

一、品種試験 各種ヲ比較シ良種ヲ見出サントスルモノニシテ良種ト認ムヘキハ「アイスキング」「コールス、アーロー」「アイスクリーム」等ニシテ「スホー、トサイベリアン」(黃肉種)モ亦優良ナリトス

第七 南瓜

一、品種試験 府下ニ適スル良種ヲ見出サントスルモノニシテ試験ノ結果ニヨレハ内藤、居木橋良好ナルカ如シ

第八 胡瓜

一、追播時期試験 追播ノ時期ト生育收量トノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ七月廿日播ハ八月一日播ニ比シ收量多キカ如シ

第九 菜豆

一、品種試験 府下ニ適スル良種ヲ見出サントスルモノニシテ九品種ニツキ試験シタルニ優品ト認ムヘキハ有蔓種ニテハ群房、無蔓種ニアリテハ「マスターピース」「レライアンズ」等ナリ

二、追播時期試験 追播ノ時期ト生育收量トノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ有蔓種ハ八月一日播ハ八月十五日播ヨリ收量多キモ無蔓種ハ之ニ反シ八月十五日播ノモノ八月一日播ノモノヨリ收量多シ

第十 刀 豆

一、品種試験 優良種ヲ見出サングタメ三品種ヲ比較シタルニ收量多カリシ有蔓赤花種ニシテ無蔓白花種尤モ少ナカリシ

第十一 鵲 豆

一、品種試験 優良ナル種類ヲ見出サントスルモノニシテ試験ノ成績ニヨレバ有蔓白花種ハ無蔓白花種ヨリ收量少ナカリキ

二、直播移植比較試験 直播ト移植トノ利害ヲ知ラントスルモノニシテ直播區收量多キヲ示セリ

第十二 菜

一、品種試験 優良種ヲ見出サングタメ不結球種三種結球種四種ニツキ比較試験シタルモ害蟲ノ蝕害ヲ受ケ確然タル成績ヲ示サザリキ

二、播種期試験 菜類播種ノ適期ヲ知ラントスルモノニシテ九月五日播九月十日播九月二十日播ノ三區ニ別ケ試験シタルニ一般ニ早播ノ方收量品質共ニ良好ナルガ如シ

第十三 瓜 哇 薯

一、品種試験 優良種ヲ見出サントスルモノニシテ十二種ニツキ比較試験シタルニ「アメリカンウオングダー」「キドニー、ルージエグロー」「グリーン、マウンテン」ハ收量多ク「アーリー、ローズ」「ダッチエス、オブ、コーンウオル」等之ニ次グ

第十四 小 蕪 菁

一、害蟲驅除試験 早播小蕪菁ヲ栽培スルニ當リ驅蟲劑トシテ除蟲菊木灰、除蟲菊石鹼、煙草粉等ノ

効驗ヲ比較シタルニ除蟲菊石鹼合劑ノ撒布最有効ナリキ

第十五 葱 頭

一、頭球栽植品種試験 各品種ニツキ秋期頭球ヲ栽植シテ發芽分蘖セシメ春期ニ至リ球莖ノ稍發育シタルヲモノヲ收穫スルトキハ其收量品質等ニ如何ナル差違アルヤヲ知ラントスルモノニシテ其成績ニ據レバ收量最モ多カリシハ黃葱頭ニシテ白葱頭收量最モ少ナカリキ

第十六 甘 藍

一、品種試験 優良種ヲ見出サントスルモノニシテ十品種ヲ比較試験シタルニ早生種ニテハ中野早生「アーリー、ゼルシー、ウエークフフィールド」「アーリー、チャールレストン、ウエークフフィールド」等收量多ケレドモ收穫期ハ「アーリエスト」最モ早く中晚生種ニアリテハ「サクセスジョン」優リ「オータム、キング」之レニ次ケリ

二、三要素適量試験 三要素ノ適當ナル用量ヲ知ラントスルモノニシテ其成績ニヨレバ磷酸五貫匁施用區最收重多ク窒素七貫匁區、加里五貫匁區、磷酸二貫匁區、等之レニ次ゲリ

第十七 龜 戶 蘿 蔔

一、播種期試験 適當ナル播種期ヲ知ラントスルモノニシテ十二月一日播收量多ク十一月十五日播收量最モ少ナカリキ

試 作

一、三寸胡蘿蔔、廿日大根、ビート、パースニツブ、バラモンジン、アスバラガス、獨活、葛薺、セル

リーパーセリー、コールラビー、ルバーブ、冬瓜、豌豆、枝豆、リマ豆、オクラ、玉蜀黍、ア
ーチチヨーク、菠薐草、スписチャード、里芋等及梨、桃、李、苹果、無花果、葡萄、苺等及各種ノ
花卉ヲ試作シ優良ナルモノハ繁殖ヲ圖リ種苗ノ配布ニ努メタリ

畜産部

家禽 (第一分場)

- 一、飼料試験 適當ナル練餌ノ配合及ビ練餌ト粒餌トノ關係ヲ知ランガタメ「白色レグボーン」種ニツ
キ試験シタルモ未ダ成績確認スルニ至ラズ
- 二、肥育試験 鶏ノ肉質ノ改良及ビ肉量増加ヲ試験セシガ自然肥育ヨリモ人工肥育法ノ方體量増加ノ步
合多ク去勢鶏ト普通鶏トハ其肉質ニ於テ去勢鶏ノ優良ナルヲ示シ又輕種ノ肉質ハ重種ニ及バザルヲ示
セリ

三、種卵及種禽ノ拂下

豚 (第一分場)

- 一、種豚ノ拂下及種付 バークシャー種、ヨークシャー種ヲ飼養シ仔豚ハ一般當業者ノ希望ニ應ジテ
拂下ゲ又種付ヲ行ヒタリ
- 二、去勢肥育及加工 去勢シ肥育ヲ行ヒ又豚肉加工ヲ行ヘリ

病蟲部 (本場)

第一 二化螟虫ニ關スル調査

前年ニ繼續シテ二化螟虫經過被害狀況驅除法等ニ關シ調査研究スルヲ目的トシ左ノ調査ヲ行ヘリ

- 一、二化螟虫發生時期調査 五月上旬ヨリ九月下旬ニ至ル期間當場構内ニ毎夜誘蛾燈ヲ點ジ毎朝之
ニ集來セシ螟蛾ヲ檢シ之レカ發生時期ヲ調査セリ
- 二、第二期被害莖切取調査 普通耕種法ニヨリ早中晩各稻ヲ一畝步宛ヲ栽培シ插秧ヨリ收穫ニ至ル
迄絶ヘズ被害莖ヲ切取リ被害莖數並ニ該莖ニ對スル螟虫ノ棲息狀態ニヨリ加害時期ヲ調査セリ尙葉
鞘變色莖ヲ切取リ其數ヲ檢シ出現ノ狀況ヲ調査セリ
- 三、効力調査 二畝歩ノ發育平均セル土地ヲ區劃シテ之ヲ二分シ一ハ被害莖ヲ拔取り他ハ之ヲ拔取
ラズシテ收穫量ヲ調査セリ

第二 穀虫驅除トシテ二硫化炭素燻蒸實施調査

本調査ハ前年度ヨリ繼續シ二硫化炭素ヲ用ヒ倉庫内ニ貯藏セル穀物ノ蟲害驅除ヲナシタルモノニシテ實
施倉庫數八十七、倉庫内容積二十七萬九千三百三立方尺ナリ

第三 作物病虫害ニ關スル試験

- 一、瓜哇薯ノ貯藏中ニ起ル腐敗病豫防試験 貯藏中ニ起ル腐敗病豫防ノ良法ヲ知ラントスルモノニシ
テ其成績ニヨレバ尤モ簡易ニシテ有効ナルハ硫黃華ヲ撒布貯藏スルニアリ
- 二、菜豆炭疽病豫防試験 播種ノ際菜豆種子ヲ消毒セルモノト然ラザルモノトノ二種トシ更ニ兩者ヲ
通シテ發芽後六月中旬及七月上旬ノ三回ニ三斗式石灰ボルドウ液施用ノモノ及石灰硫黃合劑百五十
倍液ヲ施用シタルモノ、施用セザルモノトノ三區ニ別ケ炭疽病ノ發生並ニ收量等ノ關係ヲ調査シタル
ニ種子消毒ノ有無ヲ問ハズ收量ニ大差ナカリシモ發病程度ハ種子消毒ヲナセルモノ少ナカリシガ如ク

尙石灰硫黃合劑ノ効力ハ石灰ボルドウ液ヨリモ稍劣レルガ如シ

三、蘿蔔黃筋蚤蟲驅除試驗 驅除ノ良法ヲ見出サントスルモノニシテ其結果ニヨレバ葉ノ喰害ハ粉劑類ノ撒布ニヨリ防除ノ効果アルカ如ク根部ノ喰害ハ除蟲菊加用ノ粉劑類及硫黃華並ニ惡臭ヲ有スル液劑類ノ施用ヲ可トスルカ如シ

四、杉赤葉枯病豫防試驗 杉赤葉枯病豫防ノ良法ヲ見出サントスルモノニシテ四谷丸太ノ產地四ヶ所ニ試驗地ヲ委托シテ調査シタル所ニヨレバ石灰ボルドウ液ト石灰硫黃合劑トノ効力ヲ判定シ難キモ石灰ボルドウ液ノ方効力優レルガ如シ

五、茄青枯病豫防試驗 青枯病豫防ノ良法ヲ見出サントスルモノニシテ前年度ヨリ繼續施行セルガ前年度ト同ジク木灰施用區最モ効果アルガ如シ

六、梨果鋸蜂防除試驗 鋸蜂防除ニ對スル砒素劑ノ効力ヲ知ラントスルモノナルガ砒素劑ノ使用ハ有効ナルガ如シ

七、移出植物苗木類ノ檢疫 朝鮮及滿洲等ニ移出スル苗木類及觀賞植物等ノ檢疫並ニ青酸瓦斯燻蒸ヲ申請セシ者ニ對シテ之ヲ施行シ證明書ヲ下附セルモノハ八十五件苗木本數十六萬九千七百九十四本ナリキ

八、野鼠窒扶斯菌配付 野鼠驅除ノタメ窒扶斯菌ノ配付ヲナシ驅除ヲ實施セル耕地面積四千八百五十三町歩ナリ

化學部 (本場)

一、三要素適量試驗 本場土壤ニツキ水稻、陸稻、大麥ニ對シ三要素ノ適量ヲ知ラントシ植木鉢ヲ用ヰテ試驗ヲナシ水稻作ニアリテハ窒素ハ反當四貫匁磷酸ハ二貫匁乃至三貫匁加里ハ一貫五百匁最モ良好ナル成績ヲ得、大麥作ニアリテハ窒素ハ四貫匁磷酸一貫五百匁乃至三貫匁加里ハ二貫五百匁最モ良好ナリ又陸稻作ニアリテハ磷酸ハ二貫匁、加里ハ二貫五百匁最モ良好ナリシモ窒素ハ不明ナリ

二、窒素質肥料配合試驗 形態ヲ異ニセル窒素質肥料ヲ配合シ各種作物ノ生育收量ヲ調査シタルニ陸稻作ニ對シテハ有機質窒素質肥料單用區收量最多ク大麥作ニ對シテハ安母尼亞性窒素七分有機性窒素三分ヲ配合施用シタルモノ收量最モ多カリキ

三、肥料反應試驗 肥料配合上肥料ノ反應ノ生育收量ニ甚大ナル關係アルコト明カナルヲ以テ前年ニ繼續シ本場並ニ南足立郡内ニ委托試驗地ヲ設ケ肥料配合上其反應ノ如何ハ生育收量ニ如何ナル關係アルヤ各種作物ニツキ試驗ヲ行ヘリ

四、分析 本年度ニ於ケル肥料土壤其他農產物ニツキ分析鑑定ヲナセル件數及成分數左ノ如シ

一、分析件數及成分數

	件數	成分數
肥料	九八	二四七
土壤	一三	四三
其他	五	二五
計	一一六	三一五

内依頼者別左ノ如シ

種目		本場	第一分場	第二分場
發送文書件數	受付文書件數	二、五六二	一、五二六	九五八
第一 文書受付及發送件數				
庶務部				
計	肥料商家	一二六	三一五	
	農家	三九	九八	
	町村農會	二〇五	三一八	
	郡島農會	二〇	九三	
	場用分析	三二	八五	
	件數			成分數
第二 技術ニ關スル質問應答件數				
本場	第一分場	第二分場		
八十四件	六十件	二十二件		

第三 講習講話等ニ關スル出張日數

種目	本場	第一分場	第二分場
講習及講話	五〇日	八日	一日
實地指導	二九	八	九
審査	六四	三七	三七

第四 印刷物配布

本年度ニ於テ左記印刷物ヲ本府郡町村同農會其他一般當業者及各府縣立農事試驗場ニ配付シテ參考ニ供セリ

大正四年度業務功程 壹千部

第五 種苗配布

當場ニ於テ採種育成セシ種苗及委託採種場ヨリ得タル種子ヲ配付セシ數量左ノ如シ

種類	本場	第一分場	第二分場
水稻種子	二、八九七	二、六五〇	二、六二八
大陸稻種子	一、〇五八	〇、七六〇	
大麥種子	一、六四〇	二、七七五	〇、〇五〇
小麥種子	〇、三六一	一、三七五	
裸麥種子	〇、〇〇五	〇、一五五	

除蟲菊	果樹	花卉	花	花	花	蔬菜	種薯	蔬菜	菽類	雜穀
苗	苗	苗	苗	球	子	苗	芋	子	類	穀
四〇〇	四八〇	四八〇	三〇九	一、二二七	一、二二九	四三三	九三〇	三、七〇〇	〇、〇八〇	〇、二九〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

第六 種鶏及種卵配布 (第一分場)

種	類	種	卵	種	雞
橫斑	ブリマウス	種	一六四		一七
黒色	レグホルン	種	一〇四		一三
白色	コーチン	種	四〇三		三五
名古屋	コーチン	種	一一一		三五
金色	ハンバーク	種	一一一		一五
銀色	ハンバーク	種	五二		一五

第七 種豚配布 (第一分場)

種	類	壯	牝	計
ア	ン			
黒色	オービントン	種	一七	三
計		七	六	一三

第八 見習生養成

見習生トシテ本年度新タニ入場セシモノ拾壹名、滿ニケ年間修業シ證明書ヲ交付シタルモノ三名半途退場セシモノ二名ニシテ現在拾九名ノ見習生ヲ養成シツ、アリ

第九 氣象觀測

本場、第一分場及第二分場ニ於テ毎日午前十時ニ於ケル氣温、湿度、氣温ノ最高最低、日照時、降水量等氣象ノ一回觀測ヲ行ヘリ

第十 參觀人數

本場	六千二百八十三人
第一分場	四千七百二十五人
第二分場	三千七十八人

大正六年十一月二十二日 印刷
大正六年十一月二十七日 發行

東京府立農事試驗場

東京市芝區南佐久間町二丁目十番地

印刷者 加藤隆一郎

東京市芝區南佐久間町二丁目十番地

印刷所 正隆堂印刷所

14^{2/4}

230

終

